

令和 5（2023）年度 資源評価調査状況報告書（新規拡大種）

クルマエビ玄界灘佐賀

対象水域	玄界灘佐賀	参画機関名	佐賀県玄海水産振興センター、水産研究・教育機構 水産資源研究所 底魚資源部
------	-------	-------	---------------------------------------

(1) 調査の概要

- ・機構及び佐賀県は、生物情報収集調査を実施
- ・本年度は資源評価調査報告書の作成は行わず、漁獲統計等の更新および関連情報の収集を実施

(2) データ収集状況

- ・佐賀県では主要市場における2008年～2023年の水揚量、1958年～2022年の農林統計の属人水揚量を収集済み

(3) 生物学的特性

- (1) 分布・回遊：北海道南部以南から東南アジアの内湾に生息（久保 1955）。砂泥質の底質環境を好み（梶山 1933）、当県唐津湾では夏季に湾奥の浅海域に小型の個体が分布し、成長するに従って次第に湾中部に移動することを確認（佐賀県 1992）
- (2) 年齢・成長：寿命はほぼ単年、長くても 2 年。他県干潟で発生した個体では、1 年で 10cm、1 年半で 15cm、2 年で 19cm に成長したとの報告（梶山 1933）
- (3) 成熟・産卵：およそ 1 歳で成熟し、産卵に加入（佐賀県 1993）。平成 4 年に行われた調査の結果、成熟度の指標となる生殖腺重量指数（GSI）が 5 以上と、高い値を示す個体が 4～10 月にかけて出現。5～8 月は GSI が 5 以上の個体が 30%を超えており、特に 7 月は 50%を占めたことから、唐津湾での産卵最盛期はこの頃であると推察（佐賀県 1993）。本種の産卵は年に 1 度であり、卵は海中に放卵
- (4) 被捕食関係：本種は、二枚貝、ゴカイ類および甲殻類を主に餌とし、エビジャコのほか、クロダイ、クサフグ、スズキなどの魚類に捕食されるとの報告（倉田 1972, 1986）

(4) 備考

- ・資源評価調査報告書については令和 3 年度に作成および公表済み
(https://abchan.fra.go.jp/wpt/wp-content/uploads/2021/report_2021_54.pdf)

(5) 引用文献

- 梶山英二(1933) 車蝦の産卵並に発生調査. 広島県水産試験場研究報告, 12, 134.
久保伊津男 (1955) クルマエビの群成長度. 日本水産学会誌, 20, 870-872.
倉田博 (1972) クルマエビ栽培における種苗とその播殖に関する諸原理について. 南

西水研業績, 32, 45-69.

倉田博 (1986) 第 1 編クルマエビ栽培漁業の基礎知識第 1 章クルマエビの生活.さいばい叢書クルマエビ栽培 漁業の手引き(クルマエビ栽培漁業の手引き検討委員会編), 日本栽培漁業協会, 東京, p.1-3.

佐賀県 (1992) 唐津湾 クルマエビ. 平成 3 年度 資源管理型漁業推進総合対策事業報告書(地域重要資源), 1-15.

佐賀県 (1993) 唐津湾 クルマエビ. 平成 4 年度 資源管理型漁業推進総合対策事業報告書(地域重要資源), 1-25.